

1. 児童の作品例 グループで作成した旋律と個人の旋律を交互に演奏。グループのところは全員で演奏。

どのような旋律ができましたか？

リズムは1番目と2番めで同じにしたけど2番めの最後で音を上げて気持ちが盛り上がるようにした。

どのような旋律ができましたか？

「ラ・シ・ド・ミ・」の上がり下がりでも風なりズムを出せるようにしました。また、反復させることによってよりまとまりを感じられました。音が上がると盛り上がりを感じられ、下がると落ち着いたふうを感じられました。

どのような旋律ができましたか？

一つの旋律を作り、次に、似たような旋律を作って、一回目と二回目の旋律に変化をつけた。一回目は、盛り上がり、また、落ち着いた感じに戻したが、二回目は、盛り上がり、途中は、一回目と違い、盛り上がったまま、終わった。

どのような旋律ができましたか？

音を途中まで行ったり来たりさせていたのを最後の方では、下がる上がる下がるを繰り返していたので思ったより落ち着いた雰囲気になりました。今回の変更はいらぬのかなと思いました。

振り返りから子供達の思いを確認する。

細かいリズムのみんなの旋律に合わせて伴奏も考えられている。

反復の旋律

9

みんなで考えたものを自分の担当の場所でも

17

反復の旋律

25

最後はそれぞれが作った旋律を同時に演奏。5音階だからこそ上手に重なる。

2. 児童の学びの様子

- ・鍵盤のシートを用いて5音階に親しむ活動を多く取り入れることで、演奏する技術を容易く身に付けることができた。
- ・特に教師の旋律の模倣を常時的な活動として題材全体を通して行ったので子供たちは旋律をつくることに困難さを感じることなく取り組んでいたようだった。
- ・拍を感じやすい音源を作成しそれに合わせて練習することによって一人作った旋律を演奏したり、グループで旋律を重ねたりする活動に取り組むことができていた。
- ・旋律の動きを示し、動き方から旋律を考えてつくることができた。
- ・一人でつくることが困難な児童はグループでつくった旋律を自分の担当の場所でも演奏していた。

3. 実践を終えて

- ・今回はミニキーボード、ミニ鉄琴、木琴を使用して音楽づくりを行った。鉄琴の鍵盤を抜いて都節音階の音のみを残したり、木琴に付箋で目印をつけたり、ミニキーボードのシートを用いることで、児童が一目で使用する音がわかり活動に取り組みやすくなった。そのことによって技術的な練習時間の短縮をすることができた。また、今までは音楽づくりをする際に距離感が生まれてしまっていたが、楽器が小さいことでそれが縮まり、会話がしやすいようだった。みんなで作った旋律を合わせるために教え合う姿が見られただけでなく、みんなで作った後で自分の旋律づくりを行ったので互いに助言をしながら旋律づくりに取り組んでいた。また、合奏にしていく際にも声を掛け合いながらまさに協働して音楽をまとめていく姿を見ることができてよかった。